

# ハノイ駐在員日本人の メンタルヘルス調査

松岡康彦 いたうたけひこ

(和光大学)

第26回多文化間精神医学会

2019年11月30日 (土) 17:00-17:45  
龍谷大学 深草キャンパス 和顔館B 102

## 問題

- ベトナムの日本人駐在員

年	日本人駐在員数
2011年	9,313人 (100%)
2012年	11,194人 (120%)
2013年	12,254人 (131%)
2014年	13,547人 (145%)
2015年	14,695人 (157%)

- メンタルヘルスの現状

現地におけるメンタルヘルスの専門家は少なく、精神科医はゼロであり国内勤務者と比較して支援態勢が十分ではない。

ベトナムにおいても「海外は日本人の大多数にとっては広大な精神科医療過疎地」となっている。

## 本研究の目的

2018年3月より海外駐在員のメンタルヘルスケアの状況を確認するため、ハノイへの赴任者に焦点をあてた実態を検証する。

特に駐在員の生活における心理的満足度の実態を明らかにしたい。

うつ病にならない職場づくりの改善方法の基礎資料を得ることを目的とする。



# 本研究における3つの調査

## 調査1

大企業のメンタルヘルス担当者・責任者への非構造的面接

## 調査2

ベトナム駐在員への面接調査

## 調査3

ベトナム駐在医療者への質問紙調査

## 調査1 総務担当者からの聞き取り 目的

非構造的面接を大企業社27社の現地責任者および総務担当者からの聞き取りを実施し、実態を検証する。

## 調査1 総務担当者からの聞き取り 方法

ハノイに計5回43日間訪問し、現地さくらクリニックと連携することにより聞き取り面談を実施

ハノイへの訪問期間は2018年3月3日～9月20日。その期間において大企業27社、および日本大使館へのヒアリングをおこなった。

## 調査1 総務担当者からの聞き取り 結果

- 海外赴任者のうち、うつ病や職場不適應者は赴任12か月以内の発生率が高い。
- 管理者は従業員のストレス状態をよく観察し、いつもと違う様子にいち早く気づくことが大切である。
- 日本勤務に比べて駐在員同士の職場での接触が少ないため気づくのに時間がかかる。
- メンタルヘルスの専門家が少なく、精神科医はゼロであり支援体制が不十分であると感じている。
- メンタルヘルス不調の社員に気づいても、専門家ではないため対応方法がわからず対処できない。
- 会社からのプレッシャーや文化、言語の違いでベトナム駐在員がストレスを感じていることは管理者も把握しているがどのように対応するべきか困惑している。

## 調査1 総務担当者からの聞き取り 考察

- メンタルヘルス不調者が出た場合、社員同士の対処では難しく、専門家の対応を望んでいる
- 赴任前に適性の度合いを調べる必要性がある



## 調査2 ベトナム駐在員の面接調査 目的

ハノイの生活における心理的満足度の実態を検証する

具体的には会社の辞令により駐在員として勤務している日本人を対象に、異文化接触場面における葛藤や戸惑い、関係形成・維持の工夫など、交流の様相および相互に機能している認知・感情・行動について検討する。

## 調査 2 ベトナム駐在員の面接 方法

2018年7月18日～25日、9月12日～20日ハノイに現地入りし日本人駐在員男性7人に対して質問項目を設定した面接を実施した。

面接は調査協力者と筆者の1対1で行った。

## 調査2 ベトナム駐在員の面接調査 質問項目

1. 名前、性別、年齢
2. ハノイで働いた駐在の回数
3. 今回の駐在の開始年月日
4. 体調（5段階による回答及び処方薬の有無）
5. 家庭生活（独身者・単身者）
6. 家族構成（同居者の有無・食事の方法・別居の場合のコミュニケーション手段・家族生活の満足度）
7. 仕事生活（会社名・役職・地位・現地の日本人数・ベトナム人雇用数・駐在希望度合5段階・継続の希望・労働条件、待遇の満足度・日本人との人間関係・ベトナム人社員との人間関係）
8. ベトナムの文化・民族性・風習・習慣（ベトナム人の労働意欲、時間観念）・自然環境・気候・衛生
9. その他（今楽しい事、生きがい、今困っていること、苦しんでいること・その他）

## 調査2 ベトナム駐在員の面接調査 結果（1）

### 日本人駐在員の特徴

- 妻帯者で若年層は家族が帯同している
- 単身者の場合、インターネットの進展により、家族とのコミュニケーションが昔と比べて取りやすくなっている。
- 時間的な余裕があまりなく、自分のペースで仕事がつらい。
- 日本人向けの娯楽がない。
- 食事面では大型のスーパーが進出したことにより改善されている。

## 調査2 ベトナム駐在員の面接調査 結果（2）

### ベトナム人従業員の特徴

- ベトナム人は基本的に日本人を尊重してくれている。
- 特に女性従業員はまじめで、長期的に安定して働くことを希望している。
- 相対的に仕事の時間配分を考える能力が低い。

## 調査2 ベトナム駐在員の面接 考察

- 具体的なストレスとして、文化・風習の面での時間や約束の価値観の違いや大気汚染、騒音などがあげられる。
- ベトナムでの駐在において価値観や文化的違いに戸惑いや葛藤がみられる。
- 現地スタッフとの言葉の壁、コミュニケーション不足がストレスになっている。
- 家族との会話や仕事へのやりがいが活力になっている。

### 調査3 日本人医療従事者の質問紙調査 目的

対象者：自分の意思によりハノイで就業することを選択し、日本人の患者を診る専門職である医療従事者

目的：ベトナムハノイの生活における心理的満足度の実態を検証する。具体的には、異文化接触場面における葛藤や戸惑い、関係形成・維持の工夫など、交流の様相および相互に機能している認知・感情・行動について調査する。

### 調査3 日本人医療従事者の質問紙調査 方法

調査対象者は日本人向けのハノイにある医療機関の日本人医療従事者6人である。2018年9月12日(水)～20日(木)に現地入りし、調査2の質問項目を用いた質問紙調査をおこなった。



## 調査3：日本人医療従事者の質問紙調査 結果

- 文化や言語の違いからのストレスを感じているが、自分の意思でハノイ勤務を選択しているためベトナムという異文化は吸収できている。
- 家族同伴または同棲のため会話を楽しむ、子供のための貯金、旅行が楽しみなど働くことの活力があり、ストレスコーピングができている。
- ベトナムでの文化の違いや言葉の壁、娯楽が少ないなどにはストレスはある。
- 待遇、労働条件について  
非常に満足が0%、やや満足が33%
- 職場の日本人との人間関係について  
非常に良好33%、やや良好50%

## 調査3 日本人医療従事者の質問紙調査 考察

- 自分の意思により就業していることにより、異文化を受け入れている
- 自由回答では、言葉の違いでのコミュニケーション不足や娯楽の少ないことでストレスを感じていることが明らかになった。

## 全体的考察 3つの調査から明らかになったこと

- ベトナムでの駐在において、価値観や文化の違いに戸惑いや葛藤が見られる
- 家族との会話や仕事へのやりがいが活力となってストレスコーピングできている
- ベトナムの異文化を吸収している駐在員はメンタルヘルス不調へ直結していない
- 単身者の場合でもインターネットの進展により家族とのコミュニケーションがとりやすくなっているため孤立することが少ない
- 言葉の壁、コミュニケーション不足は多数の事例でストレスとなっている。

## 全体的考察（２） 本研究の実践的意義

赴任辞令前に、現地へ30日程度の長期出張を行い、本人及び家族の現地への適応の度合いを調べることの重要性が明らかになった。

邦人医療ネットワーク（JAMSNET：ジャムズネット）など、民間団体と外務省医務官など政府関係者の連携も重要である。

さらには在外日本人のメンタルヘルスに関する法整備なども必要である。

## 全体的考察（3） 本研究の限界

今後は事例数を増やし駐在員の類型化を試みたい。

調査2では駐在員と同伴した家族や日本の家族の回答がなかったため、今後は家族の回答も集めたい。

調査3は、同じ職場環境での調査となっており、全員、家族または同居者のいるという点も偏っている。病院関係者以外の調査も行いたい。

## 結論

- 経営者及び管理者がメンタルヘルスマネジメントの必要性を理解することは海外駐在員の心の健康を維持するには不可欠である。
- 職場環境を良くしていくことはメンタルヘルス不調者を出さない効果をもたらす。
- 健康診断、歯科検診が社員全員に行われるように、心についても全員面接が必須であると考ええる。
- 海外駐在員は国内勤務以上にストレスがかかっていることが本研究で明らかになった。
- 海外駐在員のメンタルヘルスケアをしていくには定期的に全員面接をすることがストレスコーピングの一助になると確信した。

ご清聴ありがとうございました



## 文献

厚生労働省 2014 平成26年度地域・職域連携推進事業関係者会議 職場におけるメンタルヘルス対策の推進について 平成26年10月3日 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課 <https://www.mhlw.go.jp/life/05-Shingikai-109010-Kenkoukyoku-Soumuka/0000060315/>

厚生労働省 2016 平成24年度 労働者健康状況調査 大臣官房統計情報部 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list>

外務省：海外在留邦人数調査統計 平成26年度要約版 外務省領事局政策課 2015年10月 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/page22\\_000043](https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/page22_000043)

鈴木満、2011 異国でこころを病んだ時 弘文堂